

7名の所属議員がそれぞれの強みを活かして政策実現をめざします！

武庫川流域・鳴尾地域の防災・減災に全力！



草加 ともきよ
(10期目)

阪神・淡路大震災から30年という節目の年を迎え、あの未曾有の災害を経験した議員として、震災の教訓を胸に防災・減災対策に取り組んでいます。武庫川では、人口や家屋・家財等の資産が集中する下流域の氾濫対策として、従来の河川改修に加え、保水・貯留を組み合わせた総合的な治水対策が進められています。現在は、川の流れをスムーズにするために川底を掘り下げる工事や、護岸を補強する工事が実施されています。鳴尾地域では、南海トラフ巨大地震による最大クラスの津波を想定した対策や、平成30年の台風21号による被害を踏まえた高潮対策事業など、複合的な工事が平成30年度から進められ、県・市・地域が連携し令和7年度完了を目指しています。

長年にわたり北部地域の課題に取り組んでいます。



八木 米太郎
(8期目)

本市北部に住む市民にとって、国道176号・名塩道路の整備は最重要課題です。現在、国の直轄事業として、本市山口町～宝塚市栄町間10.6km、うち7.2kmが開通済で、残る東久保地区2.1kmと生瀬地区1.3kmの工事が進められています。生瀬地区は令和8年春開通予定と発表されていましたが、生瀬トンネル周辺の斜面で予想外の硬質岩が出現し、開通時期の延期が発表されました。同地区では県による武庫川河川改修、市による西宝橋架替工事も同時に進められており、東久保地区とあわせて、早期供用開始が切望されています。国・県・市の良き連携が期待されており、地域課題への取り組みを重ねてきた議員として、今後も力を注いでまいります。

保育所待機児童問題への具体的な対策を！



しぶや 祐介
(6期目)

本年4月1日時点における西宮市の保育所待機児童数は76人。令和5年度56人(全国ワースト3位)、令和6年度121人(全国ワースト2位)に続き、今年も多く待機児童が発生しました。少子化の進行に伴い、全国的には待機児童問題は沈静しつつありますが、本市では依然、多くの待機児童が発生しています。石井市長は令和4年の市長選挙において、重要公約の一つに「待機児童ゼロ」を掲げましたが、一度も公約を実現できませんでした。待機児童の多くが1・2歳児であることを踏まえた「0～2歳を対象とする地域型保育所の拡充」「年齢別定員の見直しによる1・2歳児の受入増」や、「私立幼稚園の認定こども園化」を進め、早急に待機児童問題を解消するべきです。

部活動の地域展開は子供の負担を最小限に！



かんの 雅一
(3期目)

市は令和8年9月から市立中学校部活動の地域展開を実施します。これに伴って市立中学校部活動は原則として8年8月で終了します。地域展開をめぐる、受け皿となる地域クラブや指導者の確保、活動場所や用具の取り扱い、教員の関わり、地域クラブの会費に対する保護者の経済的負担の増大などの課題が多く、子供や保護者、教員から不安の声が出ています。しかし、市は不安を解消できるだけの回答を持っていません。少子化の進展等で学校部活動の維持が難しくなっており、地域展開は不可避な状況です。それだけに、子供や保護者の精神的・経済的負担を最小限にすることが重要であり、子供や保護者に寄り添った地域展開を市に提案していきます。

介護・福祉×子育てのダブルケア世代を支える！



おおさこ 純司郎
(2期目)

私は長年、介護現場でケアマネジャーや介護福祉士として働いてきました。その経験をきっかけに市議会議員となり、皆さんが安心して暮らせるよう地域で支え合う介護の実現に全力投球しています。人材不足が深刻化する中、まずは介護従事者の処遇改善が欠かせません。在宅で介護を行うご家族の負担を軽減するために、通所介護をはじめ訪問看護・介護・施設サービスを柔軟に利用できる制度の導入や、レスパイトケア（一時休息のためのサービス）の充実を訴えています。介護予防の取り組みも重視しており、地域でのいきいき体操など健康教室や運動プログラムを拡充し、高齢者が要介護状態になることを予防して、健康寿命の延伸を目指します。

計画策定業務の見直しが進捗しています。



たかの しん
(2期目)

市役所では各部署が様々な計画を策定しており、多くの職員が策定業務に携わっていますが、計画の目的や効果が不透明なケースも多く見られます。私が調査したところ、市には127件の計画等が存在し、策定にあたってコンサルティング会社等へ支払った委託料は約3億9千万円、印刷費は約1,700万円にのぼることが判明。そこで私は、計画の必要性を精査した上で、策定の取りやめや簡素化を進めるよう求めました。私の主張を受けて、市は「計画策定業務の見直し」を全庁的な方針として掲げ、これまでに複数の計画が廃止・簡素化されました。貴重な人員や財源を市民サービスの充実に充てられるよう、今後も行政改革に向けた具体的な提言を続けてまいります。

西宮の自然と暮らしを守り100年後の未来へつなぐ。



牧 みゆき
(1期目)

温暖化や気候変動への対策として国の脱炭素化政策が進む中、市は「2050年にCO₂排出量実質ゼロ」をめざす「ゼロカーボンシティ推進事業」の一環として、未利用地におけるメガソーラー（大規模太陽光発電設備）の建設と、20年間の運用を計画していました。しかし、全国各地で問題となっている通り、メガソーラーには環境・人・生態系等への悪影響が懸念され、財政的リスクも否定できません。この方針が発表されてから、私は見直しを強く求め続け、令和7年6月に計画は白紙となりました。環境学習都市宣言の理念に基づき、地域との共生を大切にしながら、西宮の環境と人に優しく、時間をかけて守り育てていく本質的な環境政策を、これからも提言してまいります。

会派・ぜんしん PROFILE



西宮市議会の議会内会派。平成27年(2015年)に結成。政党無所属の保守系議員7名で構成。市民の暮らしに根差した行政サービスを推進するとともに、人口減少や高齢社会、財政難などの将来的な諸問題に備える体制づくりを進めるために、様々な施策を分析し、具体的な政策提案を行う。行動理念として「二元代表制を尊重」「民主主義を尊重」「市政の推進を最優先」「会派で結束して行動」「会派で情報を共有」の5箇条を掲げる。

ご意見・ご感想をお寄せください。